

|        |            |                     |     |                                       |                |                                    |
|--------|------------|---------------------|-----|---------------------------------------|----------------|------------------------------------|
| 事務事業名  | 雲南市観光協会補助金 |                     | 所属部 | 産業観光部                                 | 所属課            | 観光振興課                              |
| 総合計画体系 | 政策名        | 〈V〉挑戦し活力を産みだすまち〈産業〉 |     | 所属G                                   | 観光振興グループ       | 課長名 高橋 司                           |
|        | 施策名        | (36)観光の振興           |     | 担当者名                                  | 桑原 真由美         | 電話番号:0854-40-1054<br>(内線):2432     |
|        | 目的・対象      | A)市外の人 B)市民         | 意図  | A)市内で観光を楽しんでもらい、消費してもらう。 B)観光情報を発信する。 |                |                                    |
|        | 基本事業       | (104)観光情報の発信        |     | 予算科目                                  | 0:1350:10:1573 | 大事業名 観光振興総務管理事業<br>中事業名 雲南市観光協会補助金 |
| 目的・対象  | 市内外の人      |                     | 意図  | 観光情報を得る。                              |                |                                    |

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

|   |   |
|---|---|
| ① 対象(誰、何を対象にしているのか)   | ② 意図(対象がどのような状態になるのか)   |
| 観光客   | 雲南市に観光に訪れてもらう   |
| ③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)   |   |
| 事業期間<br><input type="checkbox"/> 単年度のみ<br><input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ( H18 年度～ )<br><input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 ) | 合併前まで各町村で組織していた観光協会を統合し、平成18年7月に「雲南市観光協会(本会)」を設立。官民協力協働による観光振興事業を推進。各町村の観光協会は支部組織とし、既存事業を実施。平成27年4月には、一般社団法人として組織化し、これに併せて各支部組織については解散した。本会は、観光振興を推進する中心的な役割を担う団体であり、協会会員や観光関係団体などの連絡・調整を図りながら、観光地域づくりや観光情報の発信、誘客への取り組み等の事業を実施している。 |
| ④ 主な活動<br>R3年度実績(R3年度に行った主な活動)<br>一般社団法人雲南市観光協会への補助金交付及び円滑な運営の支援。令和3年度「自然公園を活用した誘客促進補助金(島根県)」の活用協力。   | ⑤ これまでの改革・改善経緯<br>(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)<br>観光施策をより一体的に行うために観光協会を法人化するとともに、木次駅内へ事務所を移転、令和2年3月からは休日の職員配置を始めた。また令和4年1月からはJR西日本の派遣職員を受け入れ体制強化を図った。   |

(2) 事務事業の指標

| 成果指標        | 単位 | R元年度(実績) | R2年度(実績) | R3年度(実績) | R4年度(計画) |
|-------------|----|----------|----------|----------|----------|
| ア 観光入込客数    | 千人 | 1,457    | 986      | 933      | 1,085    |
| イ 観光ガイド利用者数 | 人  | 551      | 643      | 864      | 900      |
| ウ           |    |          |          |          |          |
| エ           |    |          |          |          |          |

(3) 事務事業のコスト

| ① 事業費の内訳 (R3年度決算)                 | ② コストの推移 |          |          |          |          |        |
|-----------------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|--------|
|                                   | 単位       | R元年度(決算) | R2年度(決算) | R3年度(決算) | R4年度(計画) |        |
| ・負担金補助及び交付金(補助金)<br>32,332千円(通常分) | 財源内訳     | 国庫支出金    | 千円       |          |          | 3,000  |
|                                   |          | 県支出金     | 千円       |          |          |        |
|                                   |          | 地方債      | 千円       |          |          |        |
|                                   |          | その他      | 千円       |          |          | 9,229  |
|                                   |          | 一般財源     | 千円       | 34,694   | 31,887   | 32,332 |
|                                   | 事業費計     | 千円       | 34,694   | 31,887   | 32,332   | 46,648 |

2 事後評価【SEE】

|                 |  |
|-----------------|--|
| ① 事業実績における成果    | 休日の職員配置や派遣職員受け入れに伴う職員体制の強化により、業務内容の見直しや新規事業の検討・実施等を行ったことで、観光客の多様なニーズに対応できている。                              |
| ② 事業実施するうえでの課題  | 限られた人員と予算の中で、より効果的な事業が展開できるように進めていく必要がある。  |
| ③ 課題解決に向けた改革改善等 | 運營業務の事務効率化、専任スタッフの専門性強化に加え、事務所機能拡充のため事務所移転の必要性がある。その他、広域観光の推進、各種団体とのネットワーク構築、会員との連携による旅行商品開発などにも取り組む必要がある。 |